

運営状況の開示について

社会福祉法人友隣会の平成 27 年度における業務及び財産に関するほうこくを下記の通り掲載いたします。

○平成 27 年度事業報告

法人所在地	宮崎県東臼杵郡門川町庵川西 6 丁目 60 番地
名 称	社会福祉法人 友隣会
代表者	理事長 吉 田 博 之(平成 27 年 8 月 18 日再任)

社会福祉法人 友隣会

◆平成 27 年度事業報告◆

□法人事業推進状況

1. 良質かつ適切なサービスの提供

利用者の権利を尊重し、利用者の個性や特性を尊重したサービス提供を目指し、職員一人ひとりが人権の尊重や尊厳への配慮意識を高め、より良いサービスの提供に努めた。

2. 制度改定への対応力の向上

各事業において、法令や規定に従っての適切な対応に努めた。社会福祉法人制度改革に向けては、情報の収集に留まり、具体的な動きはできていなかったため、29 年度に向けて今後も引き続き速やかに対応していく。

3. 地域ニーズに合わせた事業の拡大

障がい者が地域で生活するための居住の場のニーズが高まっている中、新規のグループホーム事業はできなかったが、グループホームで高齢となった利用者について、関係機関との連携により、高齢者有料老人ホームへの利用移行を果たすことができた。それにより、新規利用につながった。

4. 職員処遇改善への対応と働きやすい職場づくり

専門性の更なる向上を目指した研修やミーティングの実施で職員間の相互理解や人間性の向上を目指した取り組みを行った。情報の共有、職員研修会・ケース検討会等の実施の他、法人全体研修や交流の場を設け、明るく働きやすい職場環境づくりに努めた。

5. 地域行政や関係機関との連携

障害者福祉においては、障害者相談支援事業所を、高齢者福祉では地域包括支援センターを軸として、ご利用者にとって、より良いサービスが受けられるよう協力体制を作り、

各担当者会やモニタリングの機会等を捉えて連携を強化した。

□平成27年度理事会・評議員会の開催について

第1回理事会／評議員会

日 時 平成27年5月25日（月）午後7時 評議員会

平成27年5月27日（水）午後1時 理事会

場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール

評議員会議案／理事会議案

- ・第1号議案 平成26年度 事業報告書（案）について
- ・第2号議案 平成26年度 決算報告書（案）について
- ・その他 監事監査報告

第2回評議員会

日 時 平成27年8月6日（木）午後7時

場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール

評議員会議案

- ・役員を選任について
- ・報告事項 その他

第2回理事会

日 時 平成27年8月10日（月）午後1時30分 理事会

場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール

理事会議案

- ・第1号議案 評議員の選任について
(報告事項 役員選任についての報告)
- ・第2号議案 理事長の選任について
- ・第3号議案 理事長の職務代理について
(報告事項 その他)

第3回理事会／評議員会

日 時 平成28年3月25日（金）午後7時 評議員会

平成28年3月29日（火）午前9時30分 理事会

場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール

評議員会議案／理事会議案

- ・第1号議案 悠々工房就労移行支援等事業運営規定の改定（案）について
- ・第2号議案 平成27年度補正予算（案）について
- ・第3号議案 平成28年度事業計画書（案）について
- ・第4号議案 平成28年度予算（案）について

1. ワークセンター悠々工房 就労移行支援等事業報告書

□悠々工房 事業推進状況

悠々工房では、利用者がそれぞれに合った働き方で地域社会に貢献できることを目指し、その方らしい働き方で潤いのある生活がおくれるよう、自立支援と社会参加を目指した取り組みを行った。地域の障がい者の就労支援を担う事業所として、利用者の意思及び人格を尊重し、就労継続支援事業 B 型と就労移行支援事業の提供を行い、働く場としての環境づくりや意欲をもって働き続けるための支援、個々の障がい特性に合わせた支援を行った。地域に向けての奉仕活動や各行事等への参加、企業等における職場実習、様々な経験を通じて、社会の一員としての自覚を促しながら、笑顔での活動や充実した訓練が受けられるようサービスの充実に努めた。一般就労を目指した取り組みとして、希望者全員が実習体験を行い、一般就労への意識の醸成と自信につながった。年 1 回の県北地区合同面談会に焦点をあてた支援により、実習への挑戦から就職へつなげることができた。経営面では町外からの利用者について、日向市の新設事業所等への利用変更を行った方が 4 名、長期入院者などもあり、定員に満たない状況があった。年度末近くになり、新規の相談も増え定員も回復してきたが、他のサービスとの併用で利用日数が少ない方や一般就労されている方で仕事のない日のみの利用など、利用形態が様々となっているため利用率が下がり、事業収入は 7% の減収となった。また、生産活動において、アルミ缶の取引価格の低迷、食品加工科の稼働率の低下等から全体収入においては前年比 8% の減収となった。次年度は、更にサービスの質の向上と生産活動の活性化を図り、選ばれる事業所となるべく丁寧な取り組みを行っていく。以下、各事業について報告する。

(1) 就労継続支援事業 B 型

1. 工賃の向上についての取り組み

アルミ缶回収車に看板を設置し、他の事業所との区別を図ることで、回収協力を広く呼びかけることができた。アルミ缶の取引価格が低迷してきたことをうけ、チラシ配布等により回収への協力依頼を行った。チラシの配布は今後も継続して行っていく。

2. 作業内容の充実

利用者個々の障がい特性や健康状態、精神状態に配慮し、朝のバイタルチェックや状態観察を生かし、作業日課の選定をおこなった。委託作業にも積極的に取り組み、作業内容の充実を図った。

3. 作業スキルの習得と個別支援

個々の能力や特性を考慮し、作業スキルの向上を目指して個別支援を行った。作業で使用する機械や道具の使用については、安全を確保した上での個別指導を行い作業スキル習得に努めた。

4. 一般就労に向けた求職活動の継続

就労移行支援事業にて有期限となった方は、希望によって一般就労に向けた支援を継続し、学習会への参加や実習を重ねて一般就労を目指した取り組みを行った。

(2) 就労移行支援事業

1. 課題の把握と個別支援の充実

利用者の個々の障がい特性の理解や心身の状況の把握のため、必要に応じて個別面談を行い、ニーズや課題の把握に努めた。特に、実習参加については、事前の聞き取りや実習後の振り返りの時間を作り、丁寧な対応を行った。

2. 積極的な実習参加

実習参加希望者については、年間実習計画により、実習参加に向けての準備性を整え、計画的に実習参加を促すことができた。希望する実習先や、職種の聞き取りや学習会を通して実習への挑戦を奨励し、実習後の評価や振り返りを積み上げることで就労に向けてステップアップしていくことができた。今後は、実習を希望されない方への促しや必要な支援も継続していく。

3. 関係機関との連携体制の構築

障がい者就業・生活支援センターやハローワークとの連携をはじめ、県障害福祉課、雇用先や実習先、相談支援事業所などと常に情報交換を行い、良好な関係を築くことで、就労支援に生かすことができた。

4. 就労支援員のスキルアップ

障がい者雇用についての研修をはじめ、福祉の理念・倫理や関連法・制度の動向等、福祉関係職員として不可欠な知識や考え方を学ぶ研修に参加し理解を深めた。支援学校やハローワークの開催する事業所の説明会へ就労支援員が参加することで、広く事業を知っていただく機会を生かし適切に説明することができた。

5. 職場定着支援の充実

就労後は定期的に雇用先事業所への訪問を行い、本人の状況等についての聞き取りを行い、問題等を解決していくことで、職場定着を促した。就職して一定期間が過ぎていての方についても状況確認を行い、言葉をかける機会を持つことで、定着への意識へとつなげた。26年度に就職をされた方一名については、雇用契約の終了後の再契約が叶わず離職となった。その後、門川町や関係機関との連携により、引き続き就労への訓練を行うため悠々工房の就労移行支援事業を再利用することになった。

□ 財務状況

設・備品の整備状況	給湯器	154,434円（厨房用）
	冷凍庫	260,280円（食品加工科用）

□ 生産活動内容

- ①食品加工科（ひむかのすり身・すり身天・給食用すり身ボール等の製造販売など）
- ②工作リサイクル科（木工小物製作 アルミ缶リサイクル 園芸作業など）
- ③OA科（資料作成 年賀状印刷 名刺・はがき・封筒などの軽印刷 野菜関係パッケージシール貼り等委託作業など）
- ④その他（福祉センター管理 除草・清掃作業等の委託作業 クラフト・布小物製作など）

□ 行事、地域交流、その他の事業活動報告

- 延岡大師祭り販売（利用者2名 職員2名参加）
地域奉仕作業年2回（4月・11月 庵川漁協、公民館周辺の清掃作業）
県障害者スポーツ大会（宮崎県総合運動公園）
ふれあいタイム（年7回）
歯の衛生指導（門川町より歯科衛生士・保健師来所による指導）
家族会総会（6月3日）
利用者健康診断（8月 森迫胃腸科内科にて）
ねこの手より見学・実習（8月身体障がい者1名 12月精神障がい者1名）
視察研修旅行（9月17日～18日 熊本方面）
防災学習会（県危機管理課より来所）
東臼杵郡スポーツレクリエーション大会（門川町心の杜）
県北地区障害者合同面談会（延岡市文化センターにて 5名参加）
門川町福祉ふれあいまつり（施設販売、作品展出展、家族会フリーマーケット出店）
避難訓練（10月 3月） 門川社協合同訓練（7月）
門川町障がい者スポーツ教室（クリエイティブセンター）
延岡しろやまフェスティバル販売（利用者2名 職員1名）
福祉サービス事業所合同説明会（延岡しろやま支援学校）
ふれあい餅つき交流会（ふれあい地球館）
日向福祉の集い販売（利用者7名 職員3名）
やっちゃんばい門川ひむか物産展販売（利用者2名 職員2名）
心の健康講座販売（利用者2名 職員1名）
県実地指導（北部福祉こどもセンターより2名来所）
テーブルマナー教室（延岡市ホテルメリージュ）
ひな山祭り販売（門川町三ヶ瀬）

□ 施設外作業、請負、委託作業

- ①森迫胃腸科内科駐車場清掃、プランター花の管理（植え替え等）

- ②サンハイツ駐車場内除草、清掃作業（月1回）
- ③小規模多機能ホームこぼる除草作業等
- ④森農園トマトパックシール・シート貼り、梱包材カット
- ⑤門川町総合福祉センター周辺除草、清掃作業等

□実習、視察見学等受け入れ等状況

- ①五十鈴小学校6年生 福祉体験学習
- ②延岡しろやま支援学校実習（6月2名 / 9月2名 / 11月1名 / 1月10名）
- ③相談支援事業所より見学・体験実習
（とびら、ねこのて、ゆうあい、ひだまり）
- ④鮫島病院より視察研修受入
- ⑤門川町民生児童委員研修
- ⑥地域活動支援センターみなとより見学・体験実習
- ⑦ひゅうが障がい者就労・生活支援センターより見学・体験実習

□実習協力事業所

- ①JA 草川給油所
- ②マルケイ水産
- ③株式会社大久保商店
- ④岩田菜園
- ⑤有限会社 ショッピングセンターMARUSA
- ⑥株式会社 水永水産
- ⑦株式会社 旭化成アビリティィー
- ⑧中田トマト農園
- ⑨ひむか福祉サービス

□就 労 実 績

就労者 1名（就労移行支援事業1名）

	障害種別（利用事業）	年齢／性別	就労先／雇用年月日
1	精神障がい （就労移行支援事業）	26歳 男性	旭化成アビリティィー 平成27年12月1日

（3）日中一時支援事業

□事業推進状況

今期の利用実績はなかった。今後も、必要時いつでも受け入れができるよう各市町村との委託契約を行い、随時利用の相談等には応えていくように努める。

■ワークセンター悠々工房事業運営状況

(平成28年3月31日現在)

- ① 職員体制 計11名
- 管理者 1名
 - サービス管理責任者(兼務) 1名
 - 就労支援員 1名
 - 生活支援員 2名
 - 職業指導員 3名
 - 生産活動補助職員 1名
 - 事務員 1名
 - 事務補助員 1名
 - 調理員 1名

② 利用者の状況

定員 25名 (就労移行支援事業 6名 就労継続支援事業B型 19名)
 現員 27名 (就労移行支援事業 9名 就労継続支援事業B型 18名)

③ 利用者分類等

(1) 性別、年代別分類

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	2	7	3	2	0	4	18
女	1	4	1	1	1	1	9
計	3	11	4	3	1	5	27

(2) 事業、年代別分類

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
就労移行支援事業	3	5	0	1	0	0	9
就労継続支援B型	0	6	4	2	1	5	18
計	3	11	4	3	1	5	27

(3) 在住市町村区分

市町村	門川町	日向市	延岡市	計
利用者数	15	6	6	27

(4) 障がい分類 ①身体障がい者(重複)

身体		重複			
		知的		精神	
1級	2				
2級	4	A	1	1級	
3級	0	B-1	1	2級	1
6級	1	B-2		3級	
7級	0				
計	7	計	2	計	1

②知的・精神

知的		精神	
A	1	1級	1
B-1	12	2級	2
B-2	3	3級	1
計	16	計	4

2. ヘルパーステーション悠ライフ事業報告書

□ 悠ライフ 事業推進状況

地域のニーズに応え、介護保険対象の老人居宅介護事業として、訪問介護（介護予防訪問介護）事業を中心に、在宅高齢者の身体介護や生活全般にわたる訪問による支援を行った。障がい者支援となっている居宅介護事業・同行援護事業については、通院の同行支援が多かったため、受診先や家庭、福祉サービス事業所との連絡調整や、次回受診の計画等スムーズな支援を目指してサービスの提供を行った。各事業において、安心かつ安全なサービスの提供に努め、職員間の連携と情報の共有のための定期的なミーティングや研修を実施した。介護保険や福祉サービスの法制度対象外となる有償支援についてもできる範囲で対応し、ニーズに応えることができた。サービス提供責任者の交代もあったが、事業収入は前年比120%の増収となり、新規利用者も徐々に増えてきている為、今後も経営の安定を目指して取り組んでいく。

（1）悠ライフ（介護予防）訪問介護事業 <老人居宅介護等事業>

□ 事業推進状況

1. 利用者やご家族に満足していただけるサービスの提供

常に利用者の人権を尊重し、ニーズに即した丁寧な対応を行い、利用者が在宅において、心身ともに充実した生活ができるように努めた。

2. 職員間の連携と情報の共有化

月1回の定期的なミーティングでは、各利用者の現状や課題について必要な報告を行い、情報を共有することで、より良いサービスの提供に努めた。

3. 職員の資質向上のための教育、研修参加

職員研修の機会を持ち、人権の尊重やコンプライアンスの徹底について意識付けを図った。

4. 居宅介護支援事業所や地域福祉サービス機関との信頼関係の構築

常に介護支援専門員（ケアマネージャー）や福祉サービス事業所と必要に応じて情報提供等を行い、より良い支援について共通認識を持つことができるように関係づくりに努めた。

（2）悠ライフ 居宅介護事業 <障害福祉サービス>

□ 事業推進状況

1. 利用者ニーズに即したサービスの提供

障がいをお持ちの利用者に対し、常に相手の立場に立ち支援方法を考え、対象者の人権を尊重した支援を適切に行うことに努めた。通院の介助や移動など、待ち時間等には声掛けを工夫しながら支援を行った。

2. 心身の状況、環境等の的確な把握

利用者の心身の状況や環境の変化などの気づきに対し、適切にサービス提供責任者に報告を行い、必要な対応に努めた。

3. 利用者確保による安定的な経営

利用者の増減はないが、通院同行の回数は増えた。介護保険事業と一体的な経営となっているが、引き続き今後も利用ニーズに応えられる体制作りを行っていく。

4. 利用者や家族との信頼関係

障がい特性に応じた対応を行い、利用者や家族に満足していただけるサービスの提供に努めた。

5. 職員の資質の向上のための教育、研修参加

職員研修の機会を持ち、人権の尊重やコンプライアンスの徹底について意識付けを図った。

(3) 悠ライフ 同行援護事業 <障害福祉サービス>

事業推進状況

1. 利用者ニーズに即したサービスの提供

障がいをお持ちの利用者に対し、常に相手の立場に立ち支援方法を考え、対象者の人権を尊重した支援を適切に行うことに努めた。通院の介助や移動などについて、障がい特性に応じて適切にサービス提供を行った。

2. 心身の状況、環境等の的確な把握

利用者の心身の状況や環境の変化などの気づきに対し、必要に応じて伝わりやすい言葉かけや促しを工夫し、状況の把握に努めた。

3. 利用者や家族との信頼関係

障がい特性に応じた対応を行い、利用者や家族に満足していただけるサービスの提供に努めた。

4. 職員の資質の向上のための教育、研修参加

職員研修の機会を持ち、人権の尊重やコンプライアンスの徹底について意識付けを図った。視覚障がい者支援に特化した研修を受講し、同行援護事業についての資格を取得した。

(4) 悠ライフ 移動支援事業 <地域活動支援事業>

事業推進状況

今期の利用実績はなかった。今後利用ニーズが上げれば速やかに対応ができるように努めると共に、来年度以降の事業の継続について検討していく。

□ ヘルパーステーション悠ライフ事業運営状況 (平成28年3月31日現在)

①職員体制

職 種	常 勤	非常勤
管理者（悠々工房・GH悠 兼務）	1	
サービス提供責任者	1	
訪問介護員		6
事務補助職員		1

② - 1（予防）訪問介護事業 利用状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	合 計
年間派遣回数	668	473	745	380	70	2336
年間派遣時間	668	473	770.5	330.5	69.5	2311.5

② - 2（予防）訪問介護事業 介護度別利用者数

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	10	6	8	4	0	0	0	28

③居宅介護事業 利用状況

利用者数	障がい種別 ・ 支援区分	年間派遣回数	年間派遣時間
2	知的障がい 区分3	31	63

④同行援護事業 利用状況

利用者数	障がい種別 ・ 支援区分	年間派遣回数	年間派遣時間
3	身体障がい（視覚） なし	14	41.5

障害福祉サービス

3. グループホーム悠 事業報告書

□ 事業推進状況

障がい者の共同生活の場として、5名の利用者がその方らしく地域での生活ができるよう

に一人ひとりの支援に関わる関係機関との関係づくりに努め、地域での生活を支えるべく共同生活援助事業を行った。個々の障がい特性を理解し、生活に必要な支援を受けながら、利用者相互理解と助け合いの気持ちを持って家庭的な生活がおくれる様に支援を行った。全体ミーティングを実施し、利用者ニーズを聞き取る機会を作ると共に、利用者や職員との交流を図るため、カラオケや食事会等を企画し利用者の好評を得た。体調が不安定な利用者については、受診や必要な検査通院の同行、服薬の管理などの支援を行ったが、体調の回復に時間を要しているため、今後は医療機関、相談支援事業所や障がい者就業・生活支援センターと連携し、仕事への復帰を支援する。高齢となった利用者の高齢者施設への移行については、椎葉村や相談支援事業所の協力が得られ、スムーズな移行を果たすことができた。引き続き利用者のニーズに応えながら、バックアップ事業所となる悠々工房や、相談支援事業所、雇用先などと更なる連携を果たし、障がい者の地域での生活を支援していく。

1. 利用者ニーズに即したサービスの提供

生活のあらゆる場面において、常に障がいを持たれた方の人権を尊重し、地域での共同生活が心身ともに充実したものとなるようにサービスの提供に努めた。

2. 相談支援事業所や他の関係機関との連携

適切なサービスの利用や利用者や家族の思い、希望などサービス等利用計画に反映されるように常に相談支援事業所との連絡調整を心がけた。日中活動の事業所や雇用先との連携を図り、個々の障がい特性に配慮したサービスの提供に努めた。

3. 定員の確保

5名の定員を確保できたことで安定経営につながった。体験利用のための居室については、将来の地域生活や自立を見据え、宿泊体験ができるように随時受け入れを行った。

□ グループホーム悠 事業運営状況

(平成28年3月31日現在)

①職員体制

職 種	常 勤	非常勤
管 理 者 (悠々工房、悠ライフ兼務)	1	
サービス管理責任者 (管理者兼務)	1	
世 話 人		3

② 利用者の年代別状況 (男性5名)

20代	30代	40代	50代	60代
1	1	1	1	1

③ 障がい分類

障がい種別	知的障がい	精神障がい	身体障がい	計
利用者数	5	0	0	5

④ 体験利用者 3名

4. 悠々サポートセンター事業報告書 (自主事業)

法人内事業所において、個別面談やモニタリング、定期ミーティングや研修会などを計画実施した。また、相談支援事業所の担当者会やモニタリング、悠々工房家族会、各関係団体等に必要に応じて開放した。

外部使用団体など	使用目的
門川町手をつなぐ育成会	定例会 総会
門川町障害者連絡協議会	役員会 監査
悠々工房家族会	役員会 監査
視覚障害者福祉会	役員会
学びの会	勉強会
あさひ相談支援事業所そーれ	担当者会 モニタリング
相談支援事業所ひだまり	担当者会 モニタリング
相談支援事業所ゆうあい	担当者会 モニタリング
相談支援事業所はなはな	担当者会 モニタリング
サポートセンターしらはま	モニタリング

3. 決算状況

1) 貸借対照表

平成27年3月31日現在

資産の部		負債及び純資産の部	
流動資産計	55,56,756	流動負債計	4,334,301
固定資産計	136,729,948	固定負債計	90,608
		負債の部合計	5,24,909
		基本金	10,190,000
		国庫補助金等特別積立金	73,557,742
		その他積立金	57,100,000
		次期繰越活動収支差額	45,797,053
		純資産の部合計	186,644,795
資産の部合計	19,886,704	負債及び純資産の合計	191,886,704

2) 資金収支計算書

支出の部		収入の部	
科目名	決算額	科目名	決算額
就労支援事業支出	6,665,150	就労支援事業収入	7,255,092
福祉事業活動支出	57,224,132	福祉事業活動収入	59,293,749
施設整備等支出	414,714	施設整備等収入	0
その他の活動支出	2,587,050	その他の活動収入	0
資金支出合計	66,891,046	資金収入合計	1,688,206
当期資金収支差額	2,346,001		68,237,047
前期末支払資金残高	49,032,706		
当期末支払資金残高	50,378,707		

3) 事業活動計算書

勘定科目	法人合算決算額	拠点区分		
		悠々工房	悠ライフ	グループホーム悠
就労支援事業活動収益	7,255,092	7,255,092		
就労支援事業費用	7,090,498	7,090,498	7,899,250	5,643,650
サービス活動収益	58,807,242	45,264,342	8,331,354	4,426,487
サービス活動費用	57,719,168	44,961,327	46,881	10,961
サービス活動外収益	726,113	668,271		0
特別収益計	1,470,000	1,000,000	470,000	0
特別費用計	1,470,000	0	470,000	1,000,000
その他の積立金積立額	1,000,000	1,000,000	0	0
当期活動増減差額	1,978,781	2,135,880	△385,223	228,124
当期末繰越活動増減差額	46,797,053	35,090,920	5,048,576	6,657,557

1	資産の部		
	I. 流動資産		
	(内 訳)		
	(1) 現金		72,769
	(2) 普通預金	44,338,961	
	(3) 事業未収金	9,781,792	
	(4) 原材料	443,748	
	(5) 未収金	75,226	
	(6) 立替金	204,084	
	(7) 前払費用	240,176	
	II. 固定資産		
	(内 訳)		
	1. 基本財産		
	・建物	67,165,588	
	2. その他の固定資産		
	(1) 建物	4,690,088	
	(2) 建物附属設備	2,880,818	
	(3) 構築物	281,900	
	(4) 機械及び装置	1,903,429	
	(5) 車両運搬具	4	
	(6) 器具及び備品	1,316,423	
	(7) 退職給付引当金	907,608	
	(8) 各種積立金	57,100,000	
	(9) その他の固定資産	484,090	
	資産の部合計		<u>191,886,704</u>
2	負債の部		
	III. 流動負債		
	(内 訳)		
	(1) 事業未払金	3,041,540	
	(2) 預り金	212,761	
	(3) 前受金	1,080,000	
	IV. 固定負債		
	・退職金給与引当金	907,608	
	負債の部合計		<u>5,241,909</u>
3	差引正味財産		<u>186,644,795</u>